

神経性物再現問題 2015

1. X に当てはまる単語をかけ。
(前略) Weber mutation affects on cerebral X cells. (中略) X cells migrate to outer layer during early development. Y cells move to internak layer. (後略)
2. 図は AIF 異常の小脳の差異についてである。生後 4 か月ごろから小脳にぶらつきがみられる。よって、この小脳は小脳———症状であると認める。
3. reelal マウスの小脳を野生型のものと見比べ、その異常を記せ。
4. pcd マウスの画像を見て、どの細胞に異常があるか記せ。
5. naa1 遺伝子の変異の仕方と、それによるタンパク質の影響を記せ。

※資料が存在し、通常型のエキソン 6 と 7、異常型のエキソン 6 と 8 の一部分の塩基配列が書かれている。また、PCR の結果 5 つ（プライマーの位置がエキソン 6 と 8、7 と 11、11 と 13…）があり、エキソン 7 と 11 に結合するプライマーを使用した場合のみ異常が見られる（異常型マウスでは、その場合だけバンドが画像に写っておらず、増幅されていなかったと考えることができる）。また、コドンとタンパク質の対応表が存在。一説では、異常型マウスのエキソン 8 に終止コドンが存在していたという話。

(注意) プリントには Weber マウスの異常は顆粒細胞であると書かれていたが、テストの問題では文脈的に異常はプルキンエ細胞にある、となる。

試験時間 60 分、辞書持ち込み可（電子辞書は不可）